

IAAL

Institute for Assistance of Academic Libraries

ニュースレター

アイアールニュースレター

【特集】

これからの情報サービス

OCT. 2012

No.11



アフォーダンスとしての大学図書館

東北大学附属図書館 米澤 誠

アフォーダンスとは聞き慣れない言葉であるが、これからの大学図書館を考える上で、重要なコンセプトであると考えている。アメリカの心理学者J.J.ギブソンが提唱した概念で、もともとは彼の生態学的視覚論において誕生し、その後心理学や哲学にも大きな刺激を与えているという。

アフォーダンスの意味するところは端的に、「環境が動物にアフォード (afford) するもの」である。水を例にすると、それを知覚するとき、水は「飲むこと」や「汚れを洗い落とすこと」を人間に対してアフォードしている。水が提供する「意味」や「価値」が、アフォーダンス (affordance) なのである。

このコンセプトを大学図書館と大学生に適用すると、どうなるであろうか。

まず、図書館にある机・椅子・パソコンなどの設備は、学生に対して「学習」をアフォードしているといえる。一人用の閲覧席は、自分たちの課題・宿題をもって、そこに座り学習をはじめるとを勧めている。広めの座席で多少の会話がゆるされる場所であれば、友だちと一緒に「グループ学習」することをアフォードしている。

さらにアフォーダンス理論によると、他者も豊富な社会的アフォーダンスをもっているという。図書館の中でアフォードしているのは、設備だけではない。他の学生や大学職員もまたアフォーダンスなのである。つまり、図書館の中で学習している大学生は、他者に対して「自主学习」をアフォードしているのである。学生からは、「自分の部屋にいると勉強できないが、図書館にくと学習でき

る」という声をよく聞くことから、それが分かる。

また、レファレンスサービスや講習会を行う図書館員の姿は、学生に対して「学習支援」をアフォードする。図書館員がビジビリティの高い場所でそれらのサポートを行うことは、「教えてくれる」ことをアフォードする意味で重要なのである。外から見えない個室で、学習支援を行ってはならない。

そして、図書館の中にある資料もまた、大学生に対して「自主学习」をアフォードする。一般書架の資料もそうであるが、特別な資料であったり、膨大な分量であったりすると、ことさらその力が高まる。例えばずらりと居並んだ古典籍は、大学生にある種の憧れを呼び起こすとともに、「研究」というものを強くアピールする。英語多読リーダーの書架は、「英語の自主学习」を強く呼びかける。

このように図書館は、大学での学習や研究の仕方をまだ十分に知らない大学生に対して、常に自主的な学びの姿を示す図書館とそこで学ぶ他者というアフォーダンスに動機づけられて、学生は学習をはじめることになる。

多様な学習をアフォードする大学図書館は、キャンパスの中でも貴重な存在である。「学生の自主的な学び」が求められている現代においては、それを多面的にアフォードする施設として、意識的・積極的に戦略をねらなければならない。さらに、中高生に対しても、アフォーダンスとしての大学図書館は強い力をもっている。なぜならば、彼ら彼女らにとっては大学図書館の日常的な光景そのものが、学びの動機付けとなるのであるから。

情	こ
報	れ
サ	か
ー	ら
ビ	の
ス	
	

私たち図書館員と、私たちが働く場所である図書館を取り巻く環境の変化は、すでに始まって久しく、私たちは未だにその只中にいます。私たちがサービスの対象としている図書館の利用者を取り巻く環境も、もちろん大きく変化し続けています。こうした時代にあって、私たちは利用者への情報サービスをどのように変化させていけば良いのでしょうか。

その時代時代に合ったサービスを提供するためには、そのときどきの利用者のニーズを知ることが重要です。利用者のニーズを読み違えるとどうなってしまうのでしょうか？このことについて、すでに今から50年以上前の1960年代に、セオドア・レビットが、時代の変化に乗り遅れてしまった業界が失敗してしまった理由を分析して、秀逸な概念を提出しています。彼は当時の鉄道業界が自動車や航空機などの進展によって衰退へと追いやられてしまったのは、自らの使命を車両を動かすことと定義付け、人や物を運ぶことと捉えなかったことにあるとしました。つまり、そのとき人々が望んでいたのは、もはや単にどこかに移動することではなく、例えばそれは目的地まで楽しく快適に旅することだったのです。レビットは、このように狭い範囲でしかサービスを捉えることができず利用者のニーズとずれてしまうことを近視眼的マーケティングと名付けました。

この概念が時代を超えて現在でも繰り返し参照されているのは、まさに今、様々な技術の進歩により時代の変化の速度が速く、こうした変化の速度についていくために、自らのサービスを定義しなおさなければならない業界や業種が非常に多いためだと考えられます。

図書館も例外ではありません。図書館の仕事は、

資料を集めて保存し、利用に供することとされてきました。しかし、もはや図書館が単なる本の番人であれば良いとする図書館員は少ないでしょう。それが大学図書館であれば、そこでの情報サービスは本を提供することだけでなく、利用者である研究者の研究や学生の学びを支援することにあります。では、学生の学びをどのように支援すればよいのでしょうか？そのためには、まず彼らがどのように学んでいるのかを知る必要があります。みなさんの大学では学生はどのように学んでいますか？日頃はどこで、何を使って、どのように勉強しているのでしょうか？そして彼らのニーズはどのように変化しているのでしょうか？

こうした利用者のニーズを知るための最も有効な方法は、利用者に直接聞くことです。多くの大学図書館で行われている利用者調査がそれにあたるでしょう。例えば、これまでに行われた利用者調査では、教員は研究のための情報へのアクセスの向上を最も望んでおり、一方、学生はレポートや課題のために必要な情報へのアクセスと、一人で、あるいは仲間と一緒に学ぶための空間を図書館に求めていることがわかっています。さらに、学生は単に机と椅子があればよいというのではなく空間の快適さを求めていることもわかっています。レファレンスサービスはどうでしょうか。学生は単純に質問の回答を求めていることもありますが、本当はレポートや課題への支援を求めている場合もあります。そして後者の、いわゆる情報リテラシー教育は、学生が現実の課題に取り組む中で、学生が必要とするまさにそのタイミングで提供されることが望まれており、しかも効果的であることも明らかになっています。私たちはこうした利用者のニーズを知り、ニーズに

添って常にサービスを再構築していく必要があります。

幸いにも私は、日本の各地で、利用者が図書館に何を望んでいるのかを、心から知りたい、役に立ちたいと願っている図書館員に沢山出会ってきました。しかし、たった一人で調査を行うことは、とてもハードルが高いことです。まずは、これまで行われてきた様々な調査の結果を参照してみてください。他館の事例でも参考になることが沢山あります。

そして、今すぐにでも利用者のことを知りたいという人のために、とても簡単で、しかも現在注目されている、とっておきの方法があります。それは観察です。本を返しに行くついでに、休憩にいくついでに、どうぞみなさんの図書館の学生の様子を観察してみてください。みなさんの大学では学生はどのように図書館を使っていますか？学生が図書館の中で困っていることはありませんか？不満に思っていることは？喜んでしていることは？学生が大好きなことは何ですか？大好きな場所は？観察は非常に多くの情報を提供してくれます。観察の際には、是非みなさんの図書館員としての探究心を全開にしてください。わくわくするような発見が沢山待っているはずです。

これからの図書館の情報サービスのために、今も変化し続けている利用者のニーズに寄り添うために、どうぞみなさんの利用者について詳細に教えてください。私たち一人一人がマーケットターです。相手のことを知れば知るほど、必ずコミュニケーションは深まります。

健闘をお祈りしています。Good Luck!

新試験 「情報サービス-文献提供」 の実施について

NPO法人大学図書館支援機構（以下IAAL）では、大学図書館職員研修事業の一環として「IAAL大学図書館業務実務能力認定試験」（以下、「IAAL認定試験」）を実施しています。IAAL認定試験は、2009年5月に「総合目録-図書初級 第1回」を実施して以来、定期的に毎年2回、春と秋に実施してきました。これまでに実施した科目は「総合目録-図書初級」「総合目録-雑誌初級」「総合目録-図書中級」の目録系の3科目です。

そして、いよいよこの2012年秋季に、情報サービス業務の中から文献提供に焦点をあてた新試験「情報サービス-文献提供」を実施することとなりました。ここでは、この新試験の目的や実施方法など、その概要をご紹介します。

なお、IAAL認定試験の設計と概要については、2012年4月に刊行された『IAAL大学図書館業務実務能力認定試験問題集』2012年版に、IAAL認定試験運営委員会の大庭一郎委員による詳しい解説^[1]がありますので、そちらもぜひご参照ください。

背景と目的

個々の図書館の所蔵資料によって構築される知の体系へ、利用者からのアクセスを可能にしているツールが目録情報です。そしてその目録情報を道標として、利用者の求める情報を迅速かつ的確に提供する情報サービスが図書館では展開されています。この利用者へ文献を提供するサービスは、情報サービスの基盤的な位置を占めているといえるでしょう。

そして、文献提供業務の遂行には、NACSIS-ILLシステムや目録情報に関する知識・技術に加えて、参考図書やデータベース、あるいは著作権や各種インターネット資源に関する知識・技術など様々

な専門能力を必要としています。また、これらの情報は常にアップデートが必要です。特に、インターネット上の情報資源は日々変化していくといっても過言ではありません。そのため文献提供の業務にたずさわる図書館員は、取り巻く環境の変化に対応するため、日々の研鑽が必要不可欠です。

けれども、これまでのところ、業務を遂行する上で必要とされる実務能力をどの程度身につけているのかを客観的に評価する手立ては残念ながらありませんでした。例えば、情報科学技術協会が実施する「情報検索基礎能力試験」や「情報検索応用能力試験」（サーチャー試験）と一部共通する知識や技術もありますが、これらは「情報検索」にその主眼が置かれていますので、図書館の現場で文献提供のために求められる実務能力の一端といえます。

そこで、IAALでは、文献提供の業務にたずさわるための実務能力を評価することを目的として「情報サービス-文献提供」を実施することにしました。

この試験では、文献提供にかかわる著作権などの制度についての知識、書誌事項の読み取り、文献探索の方法、所蔵調査、それにNACSIS-ILLの利用についての知識と技術が総合的に問われます。

実務能力を客観的に評価する手段としての新試験の実施は、文献提供の業務にたずさわるために必要な知識・技術に対する認識を高めるとともに、継続的な自己研鑽の励みとなり、図書館員の資質の向上に貢献できると考えています。

出題の枠組みと実施方法

新試験の出題領域と枠組みは表1に示すとおりです。この試験は、情報サービスの中でも基本的な業務である文献（冊子に限らず）提供に範囲を限定し、

書誌事項の解釈、文献探索、所蔵調査を行ない、ILLシステム等を使って文献提供するまでを出題範囲としています。そして、これらの業務で使用するツール類（データベースや辞書・事典等）の基礎知識に加えて、文献提供に関わる著作権等の考え方も含め、上記範囲の業務が支障なく行うことができるかを出題のポイントとしています。

■ 表1 出題の枠組み

領域	内容	出題根拠
I	文献提供総論	文献入手の仕組み、相互貸借の理念や運用、著作権などの文献提供に関わる基礎知識
II	書誌事項の解釈	文献リストから文献種別の判定や書誌事項を読み取る能力
III	文献探索	文献種別に応じた入手法、文献データベースの知識・特徴と検索手法、サーチエンジンを通じた文献入手
IV	所蔵調査	大学図書館およびその他国内の所蔵、海外の所蔵
V	ILLシステム	NACSIS-ILLの利用に関する問題

この試験は、目録系の初級試験と同様に、○×式の2者択一形式で出題される、マークシート方式の試験で、問題数は100問、解答時間は50分となっています。(表2参照)

ただし、試験の形式こそ目録系の初級試験と同じ形式ですが、情報サービス系の試験には、初級、中級といった区分は想定されていません。

■ 表2 出題形式・問題数・解答時間

科目	出題形式	問題数	解答時間	解答方式
情報サービス-文献提供	2者択一(○×方式)	100問	50分	マークシート方式

今後の予定

2014年までのIAAL認定試験の実施予定を表3に示しました。あくまでも、現時点での予定ではありますが、今後の受験計画の参考にしてください。

IAAL認定試験が、館種を超えて図書館の現場で業務にたずさわる方々の自己研鑽の励みとなることを願っています。また、今後図書館で働くことを希望する学生の皆さんにも、業務で必要とされる基礎知識と技術を培うための学習の目標として、IAAL認定試験を活用していただければ幸いです。

■ 表3 「IAAL認定試験」実施予定

試験区分	実施年	2012		2013		2014	
		秋	春	秋	春	秋	
総合目録	図書初級	○	-	○	○	-	
	雑誌初級	-	○	-	-	○	
	図書中級	-	○	-	-	-	
	雑誌中級	-	-	-	○	-	
情報サービス	文献提供	○	-	○	-	○	

参考文献 [1] 大庭一郎, "IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験の設計思想と概要," IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験問題集. 2012年版, 東京, 大学図書館支援機構, 2012, p.2-12 ISBN:9784906824007

「情報サービス-文献提供」 問題例

IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験の新科目「情報サービス-文献提供」について、どのような問題が出題されるか具体的に紹介します。

基礎問題

文献提供に関わる基礎的な知識を問う問題群です。p.5にある5領域を軸に出題されます。

文章の内容が正しい場合は○、正しくない場合は×を選びなさい。

- 例題1. JAIROとは、日本の機関リポジトリに蓄積された学術情報を横断的に検索できる「学術機関リポジトリポータル」のことである。
- 例題2. 図書館では、利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するためには、公表された著作物の一部分の複製物を、複数提供することができる。

応用問題

応用問題では具体的な事例で、5領域の内容が出題されます。

1. 特定の文献を探す (問題の趣旨 設問のねらい)

論文の巻末に参考文献としてあげられている文献を入手するまでを想定した問題群です。いろいろな事例について、まずは文献の種類を判定し、それを提供する上で必要となるツールの選択、的確な検索方法、結果の判断といった入手までに必要な知識を問います。また、最終的な文献入手のための技術として、ILLや、電子化された本文情報の入手に関する問題と、文献複写や相互貸借での著作権の問題を含みます。

ここでは日本語の雑誌論文の例題をあげますが、欧文のもの、雑誌論文以外の図書、図書の一部、学位論文、新聞記事、統計、規格、法令・判例などから出題されます。

○次の文献について、例題3から例題6の文章が正しい場合は○、正しくない場合は×を選びなさい。

野中郁次郎, 梅本勝博. 知識管理から知識経営へ—ナレッジマネジメントの最新動向—.
人工知能学会誌. 2001, vol. 16, no. 1, p. 4-14.

- 例題3. CiNii Articlesで検索してヒットした画面(図1)の①をクリックすると、だれでも無料でこの論文のPDFを入手することができる。
- 例題4. ②「NDL-OPAC 国立国会図書館で本をさがす」をクリックすると、この文献が収録されている資料を所蔵している全国の公共図書館が表示される。
- 例題5. この文献をNACSIS-ILLで複写依頼するため、NACSIS-CATの書誌ファイルを検索する場合、「野中 郁次郎」は適切な検索語である。
- 例題6. 「文献を至急入手したいので、FAXで送って欲しい」という文献複写依頼を受けた。この場合、受付館では、送信のために作成した中間複製物は必ず破棄する。



図1

2. テーマで文献を探す (問題の趣旨 設問のねらい)

ある特定のテーマでレポート・論文作成を行うには、そのテーマに関する資料探索が必須です。図書館でそれをサポートするには、文献を集める際に必要な知識がなければなりません。ここでは資料探索に必要な、各種データベースや書誌類を使いこなす能力を問います。

○宮澤賢治の小説『銀河鉄道の夜』を欧文で紹介した文献を探している。

例題7. CiNii Booksで図書を検索する際、「フランス語で書かれたもの」など言語の種類で結果を絞り込むことができる。

例題8. あるデータベースで論文を探してみると、映画「銀河鉄道の夜」に関するものも含まれていた。そのデータベースにNOT検索機能がある場合、「animation」「film」「movie」「motion picture」などを除くと効率よく検索結果が得られる。

3. 事項調査（問題の趣旨 設問のねらい）

文献提供の基礎的能力として、基本辞書を有効に使うことができるかを問う問題群です。ここでの基本辞書の範囲は、百科事典、国語辞典、漢和辞典、人名事典、地名辞典、言語辞典、書誌目録等の代表的なもののみを取りあげます。主に冊子ですが、データベースとしても提供されているものはそれを含みます。

例題9. 漢字の異体字を調べるには、康熙字典での正字体の親字のもとにその異体字が書かれている『大漢和辞典』諸橋轍次著を使うとよい。

例題10. 『大漢和辞典』は本体と別に「索引」「語彙索引」「補巻」があり、熟語からひくには「索引」を用いる。



解答と解説

例題 1. ○

「JAIRO とは」のサイトに「学術機関リポジトリポータル JAIRO は日本の学術機関リポジトリに蓄積された学術情報（学術雑誌論文、学位論文、研究紀要、研究報告書）を横断的に検索できる、JuNii+（試験公開版）の後継サービスです」と書かれています。（http://jairo.nii.ac.jp/help/about_us.html [アクセス 2012.8.16]）

学術機関リポジトリとは、大学等の研究機関が、その知的生産物を電子的形態で集積し、保存し、無料で公開するために設置する電子アーカイブシステムです。学術情報を提供する仕組みとして、機関リポジトリとは何か、JAIRO とは何かをおさえておきましょう。

例題 2. ×

著作権法 31 条（図書館等における複製等）では、図書館資料を用いて著作物を複製できる条件を 3 つ定めています。そのひとつは「図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分（発行後相当期間を経過した定期刊行物に掲載された個々の著作物にあつては、その全部）の複製物を一人につき一部提供する場合」というものです。従って、問題文の「複数提供することができる」という部分は間違いです。

例題 3. ×

まず、この文献は雑誌論文であることが判断できます。学会誌なので、CiNii Articles に収録されている可能性が高いと予想したとしましょう。その検索結果の画面から、必要な情報を読み取る問題です。CiNii Articles には論文本文を PDF で閲覧できるものでも、有料のコンテンツと無料のコンテンツが含まれています。

画面の「この論文を読む/探す」の見出しの元に「CiNii 論文 PDF- 定額アクセス可能」とある場合は、事前に契約が必要な文献です。

例題 4. ×

CiNii Articles は、国立国会図書館 (NDL) の雑誌記事索引や科学技術振興機構 (JST) の J-STAGE 等のデータとの同定・統合を行い、検索結果から NDL-OPAC の雑誌記事索引の検索結果に飛ぶことができます。しかし、雑誌記事索引のデータは記事の索引であり、収録されている資料を所蔵している全国の公共図書館は表示されません。（国会図書館での所蔵のみ表示されます。）

例題 5. ×

自館で所蔵していない場合、図書館間相互貸借 (ILL) を利用することは有効な方法です。基本的な NACSIS-ILL システムの利用について覚えておきましょう。NACSIS-ILL は NACSIS-CAT の総合目録データベースの書誌レコード・所蔵レコードを利用して、ILL レコードを作成できる仕組みです。総合目録データベースは図書ファイル、雑誌ファイルから構成されています。この間のように、論文の著者で雑誌書誌ファイルを検索することはできません。また、NACSIS-ILL の操作には、NACSIS-CAT 特有の検索の仕組み（全文検索ではなくインデックス検索）の理解。具体的には「総合目録・初級」程度の検索能力が備わっていることが望まれます。

例題 6. ○

「図書館間協力における資料複製に関するガイドライン」（平成 21 年 7 月 1 日 国公私立大学図書館協力委員会）に「著作権管理団体との契約及び合意の趣旨に鑑み、利用者には紙面に再生された複製物のみを提供すること、本ガイドライン第 8 項に従って中間複製物を破棄することの 2 点を必ず履行するものとする。」と書かれています。このような ILL 運用上知っておくべき著作権やガイドラインは、国立情報学研究所目録所在情報サービスの下記のサイトに、「図書館間相互利用関係法令および申告せ」としてまとめられています。
<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/illmanual/law.html> [アクセス 2012.8.16]

例題 7. ○

NACSIS Webcat の後継サービスとして、CiNii Books が 2011 年 11 月に開始されました。CiNii Books では、検索機能が拡張され、様々な検索ができるようになっています。言語種別で絞り込むこともそのひとつです。ヘルプマニュアルの「言語種別」の項に「タイトルの言語、本文の言語をプルダウンメニューから指定できます。」とあるので、CAT の書誌レコードの TXML (テキストの言語)、TTL (タイトルの言語) 両方を対象にしていることが分かります。このように、各データベースを利用する際、マニュアルを読んで、どの範囲でどのような検索ができるかを把握する習慣をつけることが大切です。

例題 8. ○

情報量が多いと、その中から欲しい情報を探し出すことは容易ではありません。その際、データベースに NOT の論理演算機能があると便利です。

また、自然語の検索では、語彙を選択する必要があることも覚えておきましょう。日本語では「映画」ですが、英語では「film」「motion picture」「cinema」、このケースでは「animation」といった表現があり得ます。日本語での検索の時も同様に、同義語や略語を念頭におくことが検索の精度を左右します。

例題 9. ○

文献提供の過程では、事項調査が必要になる場合がありますので、基本辞書を使いこなすことも必要なスキルです。『大漢和辞典』は全 12 巻と「索引」「語彙索引」「補巻」からなり、約 5 万字の親字（見出し漢字）が収められた世界最大の漢和辞典です。一般に漢和辞典は漢字の読みや意味を調べる時使いますが、大漢和はこの間にあるように異体字を調べるとか、単語の辞典を調べるといった場合に無くてはならないツールだと言えます。

例題 10. ×

冊子の基本辞書でも、またデータベースでも、索引・インデックスを知っているとうまくひくことができます。使ってみた経験がないと、利用者のニーズに応えられませんので、まずは本文に何が書かれているか、そして、どのような索引がついているかを確認しておきましょう。大漢和の「索引」には総画索引・字音索引・字訓索引・四角号碼索引等があります。また「語彙索引」では様々な古典を出典とした熟語から本体の巻・頁に案内されます。これを使うと、例えば「青春」という熟語は 12 巻 109 頁と簡単に探すことができます。

IAAL 大学図書館業務 実務能力認定試験

「総合目録 - 図書初級」第5回, 「総合目録 - 雑誌初級」第5回 実施報告

日時 2012年5月27日(日) 14:00-14:50
(図書初級, 雑誌初級 同時開催)

会場 東京 - 機械振興会館
大阪 - 公益社団法人国民會館

出題 マークシート方式・二者択一・100問
(図書初級, 雑誌初級 共通)

	図書初級 第5回	雑誌初級 第5回
応募者数	134名 (東京88名・大阪46名)	67名 (東京48名・大阪19名)
受験者数	129名 (東京84名・大阪45名)	60名 (東京43名・大阪17名)
合格者数	72名 (合格率55.8%)	42名 (合格率70.0%)

図書初級 第5回

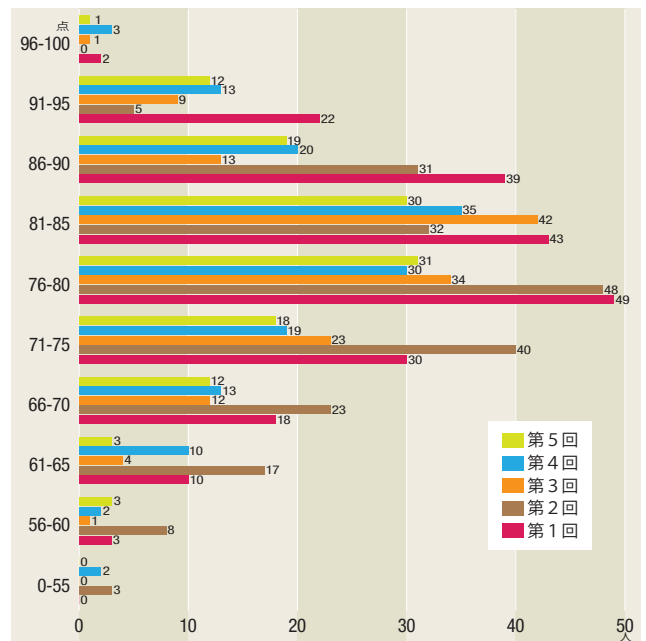
● 全体の得点分布 (第1回~第5回)

2009年5月に第1回目が行われた図書初級の試験は、今回で5回目となりました。

試験問題の出題形式は第1回目から変わっておらず、毎回100問が出題され、80点(1題1点)以上の獲得で合格となります。各回の得点結果表あるいはグラフを見てもらうと分かるように、結果は毎回概ね同じ水準となっています。

これまで試験を受けられた方、そしてこの春に刊行された『IAAL大学図書館業務実務能力認定試験問題集 2012年版』に掲載されている100題を解かれた方は、ご自身の得点がだいたいどのくらいに位置しているか、グラフから分かるでしょうか? 今回も、平均点などから分かるように「合格まで、もう少し」という方が多かったようです。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
最高得点	97点	94点	97点	96点	98点
平均点	79.9点	76.4点	79.3点	79.2点	79.8点
得点中央点	80点	77点	80点	80点	80点
標準偏差	8.51	8.93	7.29	9.05	8.28



● 問題の領域別正解率

領域	第5回	問題数
総合目録の概要	79.1%	30
各レコードの特徴	76.0%	15
検索のしくみ	81.9%	25
書誌同定	77.4%	10
総合	82.2%	20

図書初級では毎回、左表にある5領域を設定して問題を構成しています。

今回は「各レコードの特徴」と「書誌同定」がやや低い結果となりました。「各レコードの特徴」は、NACSIS-CATの特徴ともいえるレコードの作成単位や典拠レコードの特徴などについて問うものです。例えば「出版物理単位」や「集合書誌単位」といったことは普段あまり意識していないかもしれませんが、NACSIS-CATを正確に操作するには非常に重要な概念ですので、このようなこともきちんと押さえた学習が必要です。「書誌同定」は、その名のとおりに、手元の資料と書誌レコードを同定できるかどうか、という実践的な事柄を問うものです。

"実践的"と言っても、「実際の業務ではなく試験で出題されても、架空のことで考えにくい」というご意見があるかもしれません。しかし、日々の業務で曖昧に捉えていることが試験を受けることで明らかになることもあると思います。この試験でどのような問題が出題されているか、まだ未見の方は、「問題集」やこれまでニュースレターに掲載された問題例を是非一度見てみてください。

雑誌初級 第5回

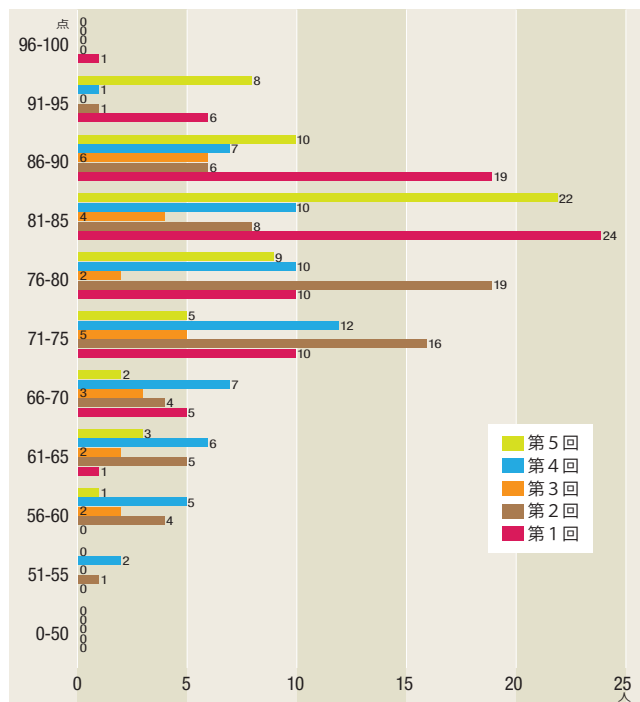
● 全体の得点分布 (第1回～第5回)

雑誌初級の第1回目は2010年5月に行われ、その雑誌初級も今回で5回目を迎えました。

得点結果表を見てもらうと分かりますが、第1回目と比較して、第2回目から第4回目は全体的な得点が低い結果となっていました。明確な理由は分かっていませんが、第1回目は雑誌業務専任の方が多く受験し、2回目以降は雑誌業務を兼任で担当している方が多く受験したからではないか?などと考えられます。

そして今回の結果は、平均点は第1回目と近い点数であり、80点以上を獲得し合格された方も42名・合格率70.0%と高い結果となっています。ただし、受験者総数が少ないこともあり、今回の結果の正確な要因は分かっていませんが、「問題集」やニュースレターの問題例で事前学習をした方が増えたことなどが理由かと考えられます。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
最高得点	97点	91点	89点	92点	93点
平均点	82.1点	75.4点	76.3点	73.9点	81.5点
得点中央点	84点	76.5点	76点	75.0点	83点
標準偏差	7.07	8.61	9.39	10.0	7.87



● 問題の領域別正解率

領域	第5回	問題数
総合目録の概要	76.7%	30
各レコードの特徴	91.4%	15
検索の仕組みと書誌の同定	81.8%	22
所蔵レコードの記入方法	80.9%	13
総合	81.3%	20

雑誌初級でも毎回、左表にある5領域を設定して問題を構成しています。今回はどの領域も高い正解率となりました。特に図書初級と反対で、「各レコードの特徴」は高い正解率となっています。

「総合目録の概要」のみ、他と比べてやや低い結果となっています。これは、総合目録データベース全体の構成や規則、NACSIS-CAT全般に関する知識を問うもので、図書初級、雑誌初級共通の問題が多く出題されています。

雑誌業務を行う上で、雑誌目録そのものに関する知識はもちろん必要ですが、NACSIS-CATを正確に操作する上で知っておくべき基本事項もしっかり押さえておくことが大切です。試験を受けた方あるいは「問題集」を解かれた方で、この領域の点数が良くなかった方は、「目録情報の基準」などの基本書を是非読み直してみてください。

今回は2012年5月に行われた図書初級第5回目と雑誌初級第5回目の結果概要をお伝えしました。図書初級の方が早く始まりましたが、図書目録は「中級」試験がこれまで2回開催されていることもあり、今回の試験で図書初級と雑誌初級が同じ第5回目を迎えることになりました。

さて、当試験の問題は非公開であり、これまではニュースレターで「抜粋」として紹介してきた問題例があるだけでした。しかし先にも書いたとおり、本年4月に『IAAL大学図書館業務実務能力認定試験問題集 2012年版』を刊行しました。他のページでも紹介していますが、これは図書初級、雑誌初級の問題が100問ずつ、そしてその解説をまとめた本です。

試験後に行ったアンケート(図書初級の回答者は128

名・雑誌初級は60名)から、図書初級受験者のうち86名(67%)、雑誌初級受験者のうち51名(85%)が事前学習に「問題集」を使用されたことが分かりました。ただ、「問題集」の刊行から今回の試験日まで1ヶ月弱しかなかったことや、具体的な学習方法までは分からないため、この「問題集」での学習が試験結果にどう影響しているのか、正確に数値化してお伝えすることは難しい状況です。

しかし私たちは、「問題集」にある100題を解くことは目録に関する様々なエッセンスを学べること、と考えています。これまでの試験を受けられた方、これから試験を受けようという方、そして目録の学習を深めたいという方、ぜひこの「問題集」を手にとってみてください。そして様々な問題を解くことで、目録の学習を楽しく進めてもらえればと願っています。

IAALのサイト内に、認定試験専用のページを設けています。認定試験のことについては、こちらのページをご覧ください。

▶ http://www.iaal.jp/IAAL_HPver5/index.html

IAAL 認定試験

検索

「実務能力認定試験問題集」の意義

東北大学附属図書館総務課長 **米澤 誠**

2012年4月に、待望の『IAAL大学図書館業務実務能力認定試験問題集』（以下「本書」という）が刊行された。図書初級問題100題とその正解と解説、そして雑誌初級問題100題とその正解と解説を収録した本書について、あらためてその刊行の意義を述べることにしたい。

情報リテラシーとしての目録力

私が大学図書館に就職した30年ほど前には、目録担当者（カタログラー）というものはいわば雲上人扱いであった。豊富な知識と経験に裏打ちされた、極めて高い専門知識を持つ者だけが、図書館の目録を作成することができたといわれている。

それが、学術情報システム構想の下にNACSIS-CAT（目録システム）が普及して、総合目録データベースが成長するにつれて、目録担当者の位置づけは一変した。数日の講習会さえ受ければ、誰でも目録を作成できるような世の中になったのである。目録に関する知識と技能が、標準化・大衆化したといえよう。

そして、大学図書館員の守備範囲が多岐に広がり、標準化された目録作成業務が外注されていくにつれ、目録業務自体の地位は低下し続けているように見える。大学図書館員が目録を語る場面さえ、極めて少なくなってきたといえ実感している。

しかしながら実は、今まさに大学教育のホットトピックである情報リテラシー教育の領域において、この目録に関する知識が必要不可欠であることを、改めて指摘しておきたい。名著『図書館に訊け』の著者・井上真琴氏が述べているように、「利用者が資料を探索していくには、目録に記述された書誌情報・所在情報を読みとる手続きが必要」であることは忘れてならない。

この読みとりの手続きについて井上氏は、「重要なのはOPACの検索方法ではなく、目録に記述された書誌情報の読みとりプロセス」とも明言している。すなわち図書であれば、出版年は何時なのか、定評がある出版社であるか、何回版を重ねているか、判型とページ数は、巻末に引用文献リストはあるかなどを、書誌情報から読み解くことができる。また雑誌であれば、求めている論文が掲載されているものと書誌情報が一致するか、巻号が一致するか、誌名変遷はないかなどを読解する力が必要となる。目録力という基本的な情報リテラシーがあってはじめて、図書館員としての資料探索が可能となるのであり、情報リテラシー教育を行うことができるのである。

図書館員にとっての基本自習教材

このように考えると、本書は単に認定試験のための問題集や目録担当者のスキル保証のための学習資料として有用であるに留まらない。大学図書館員の情報リテラシーとしての目録力を保証するとともに、目録力を育てるための基

本自習教材となるのである。大学図書館員である限りは、認定試験そのものを受験しないまでも、本書を使用することにより一定の目録力を鍛える必要がある。

この辺の事情については、本書の「まえがき」で武蔵野大学教授にして本NPOの理事長である小西和信氏が次のように述べている。少々長くなるが引用したい。

「図書館員が何らかのプロであるとしたら、何よりも現場で必要とされる実務能力（テクニカルサービスの）を持つことが求められるはずで。それは、図書館という職場で働くうえで、十分条件ではないのですが必要条件であると思います。

しかし、業務にコンピュータが導入された1980年代後半から大学図書館では、皮肉にも図書館職員の実務能力の低下、実務知識不足が進行しました。何も目録や分類一筋40年というプロを再び養成しなければならないと言っているではありません。ただ、図書館職員として世に立つためには、必要最低限の実務能力、実務知識の涵養が必要なのではないだろうか、そうでなければ『空洞化』は避けられないでしょう」

私の職場の非常勤職員に、本書を使ってみた感想を訊いてみたところ、非常に分かりやすいとのコメントが多かった。自分で問題を解いてみて、その後解答を読解することでNACSIS-CATに関する理解が深まったという。さらに、随所におかれたコラム「カタログラーの独り言」も、現場ならではの知見にあふれていて、大変実務上の参考になるとのことであった。

本書は、目録というひとつの領域に限るものであるが、図書館員として基本的に必要な実務知識・実務能力が自学自習できる教材となっている。これからの情報サービスを考えていく上でも、私たち図書館の管理職こそ率先して、基礎的なスキルを確認しておきたいところである。本書のような自習教材を活用することにより、大学生だけではなく、私たち図書館員も「主体的な学び」を続けていく必要がある。それが図書館の空洞化を避けるための、はじめの一歩であると確信している。

『IAAL大学図書館業務実務能力認定試験問題集 2012年版』



目次

- 第1章 IAAL大学図書館業務実務能力認定試験の設計思想と概要
 - 1. IAAL認定試験の実施の背景
 - 2. IAAL認定試験の基本思想
 - 3. IAAL認定試験問題集の活用方法
- 第2章 図書初級模擬問題100題
- 第3章 図書初級模擬問題の正解と解説
- 第4章 雑誌初級模擬問題100題
- 第5章 雑誌初級模擬問題の正解と解説

コラム「カタログラーの独り言」（『IAALニューズレター』連載記事の再録）

カタログの 独り言

「目録フランス語の基礎知識」

日ごろ洋図書に馴染みの薄いカタログの中には、英語ならまだしも、フランス語やドイツ語の資料を整理する機会はありません、言葉もよく分からない、という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。中国語や韓国語、その他の特殊文字を使用する言語については「〇〇の取扱い」という形で指針が公開されていますが、フランス語やドイツ語などのローマンアルファベットを使用する言語についてはそのようなものはありません。

そこで今回はフランス語で書かれた資料の書誌情報を記述する際の注意点をまとめてみましょう。

● アクサン

フランス語に限らず、ローマンアルファベットを使用する言語では、アルファベットの一部に符号が付くものがほとんどです。

フランス語では母音に「`」「^」「^」の3種類の符号（アクサン）が付きます。子音に付く符号は「ç」の1種類だけです。書誌情報として記述する際は見たとおりに転記するのが原則ですが、フランス語の場合は大文字で表記する際、アクサンを省略している事があります。この場合は、大文字・小文字は正書法に則って書き換え、アクサンもあるべき箇所に追加する必要があります。（「AACR2」1.0G1）

アクサンが必要かどうかは、大抵はその単語を辞書で引けば確かめられるのですが、「A」については注意が必要です。大文字で「A」と表記されている場合、2つの可能性があるのです。一つは「avoir（英have）」の三人称単数現在の活用形で、もう一つは前置詞の「à」です。タイトル中に現れる「A」は、後者の前置詞の事が圧倒的に多いのですが、この場合はアクサンを付けて「à」（もしくは「À」）と記入しなければなりません。つまり、タイトルの文の構造を考えなければ正しく記述する事ができないのです。なお、辞書の配列は、符号の有無や種類に関係なくアルファベットそのものの順に並んでいます。

● 大文字

次に大文字の使用法について、英語とは異なる点を挙げてみましょう。まず、言語の名称は小文字です。（例：l'anglais 英：the English）また、国の名前が形容詞として使用される場合は小文字です。（例：le peuple français 英：the French people）ただし、名詞の場合は大文字です。（例：les Français 英：France）月と曜日の名前は小文字です。（例：janvier, février..., lundi, mercredi...）

団体名についてはちょっと複雑な規則があります。最初の単語は大文字、最初の名詞は大文字、最初の名詞より前にある形容詞は大文字です。（例：Société de chimie physique）（次号に続く）

IAAL事務局：K生

IAAL 大学図書館業務 実務能力認定試験 (IAAL 認定試験)

いよいよ
新試験
開始!



【締め切り】

2012年
10月20日(土)
消印有効

2012年 11月4日 (日曜日)

- ▶ 「情報サービス-文献提供」 第1回
- ▶ 「総合目録-図書初級」 第6回

- ① 東京会場 (機械振興会館)
- ② 大阪会場 (公益社団法人 国民會館)

詳細はホームページをご確認ください。

図書初級、雑誌初級の模擬問題100題とその解説。
受験の準備にそして目録の学習の教材としてお役にたいてください。
また、認定試験合格者の評価基準としてご参照ください。

IAAL 大学図書館業務
実務能力認定試験問題集

2012年版



IAAL認定試験問題集編集委員会 編
NPO法人 大学図書館支援機構 発行

2012年版

IAAL 大学図書館業務 実務能力認定試験問題集

- 価格 1500円
- 判型 B5判
- 頁数 130ページ ■ ISBN 978-4-906824-00-7

当機構のHPもしくはAmazonから。
ご購入はお早目に。

★10冊以上まとめてご注文の際は、事務局まで
ご連絡ください。

> COVER story



2011年グッドデザイン賞の東京工業大学附属図書館。私立大学図書館協会東地区部会・研修分科会(企画・実施:IAAL)の夏の見学会で訪問しました。

講演のお知らせ

大学図書館支援機構は、第14回図書館総合展にてフォーラムを主催いたします。多数のご参加をお待ちしております。

日時: 11月21日(水) 13:00-14:30 場所: パシフィコ横浜 第9会場 参加費: 無料

テーマ

「これからの情報サービス:大学は図書館に多くを期待している」

▶ 米澤誠 (東北大学附属図書館・IAAL 理事)・高野真理子 (IAAL 事務局長)

お申込方法: 参加ご希望の方は、お名前、所属先、E-mail、をご記入の上
info2012@iaal.jp へ、お申し込みください。
席に余裕がある場合は、当日のお申し込みも受け付けます。

担当 : 高橋 (Tel: 03-5961-3401)

訂正文 前号10号 P7に間違いがありましたのでお詫びして訂正致します。

× 図書中級 第2回 合格者数 22名(合格率37.9%) → ○ 図書中級 第2回 合格者数 24名(合格率41.3%)